

水産・環境科学総合研究科 博士前期課程 環境科学専攻の教育理念・目標

環境科学専攻では、環境問題を解決するための政策立案・環境管理、環境設計、環境影響評価、環境保全の専門知識および応用力を備え、文系分野と理系分野の環境領域における確たる専門性および幅広い視座による問題解決に向けた実践力を有する学際ベースの環境スペシャリストの育成を目指しています。

この目的を達成すべく、以下に挙げる3つのポリシーに基づいた博士前期課程教育を行います。

水産・環境科学総合研究科 博士前期課程 環境科学専攻のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、

- ・社会科学と自然科学に関する基礎・応用知識を修得している。
- ・自然環境メカニズムから社会システムにわたる多様な分野・領域において必要とされる汎用性と専門性の高い技能を身につけている。
- ・環境問題を解決できる高度専門職業人としての基盤的知識・技能を修得している。
- ・地球環境と社会の多様性について理解し、課題に対して実践的に対応できる高度な専門的能力を有している。
- ・環境問題の解決のために主体性をもって他者と協働できるリーダーシップおよびコミュニケーション能力を身につけている。
- ・地域社会および国際社会、そして将来世代の持続可能な発展に貢献できるグローバルな視点を身につけている。

と認められ、修士論文が学位審査基準を満たした者に対し、環境科学専攻にあっては修士（環境科学）または修士（学術）の学位を授与します。

学位審査基準

環境科学に関連する内容であって、学術論文として論理的にまとめられており、修士学位論文としての独創性、新規性、普遍性、論証性などの学術的価値が含まれていると、学位審査委員、博士前期課程委員会が認めるものであること。

水産・環境科学総合研究科 博士前期課程 環境科学専攻のカリキュラム・ポリシー

- ・文理共通の入門科目で，地球環境および地域環境，フィールド調査・観測に関する基礎的知識を学びます。

学修の到達度は，主にレポートおよび筆記試験により評価します。

- ・専門科目の学際演習科目では，社会科学および自然科学の基礎的知識を踏まえ，グループワークにより環境問題解決のための多様な方法を実践的に学びます。

学修の到達度は，レポートおよびプレゼンテーションを通じて評価します。

- ・専門科目基礎特講で，人間社会環境，法制度，社会経済システム，環境計画，地球科学，環境技術，生物多様性保全，生体影響に関する広範な専門的知識を学びます。

学修の到達度は，主にレポートおよび筆記試験により評価します。

- ・専門科目応用特講で，人間社会環境，法制度，社会経済システム，環境計画，地球科学，環境技術，生物多様性保全，生体影響に関する高度な応用知識を学びます。

学修の到達度は，主にレポートおよびディスカッション，プレゼンテーションにより評価します。

- ・特別研究において，専門性・学術性の高い知識と技能を段階的かつ実践的に学び，修士論文を作成します。

学修の到達度は，主に修士論文およびプレゼンテーションを通じて評価します。

科目に関する別表（環境科学専攻）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	基礎的知識 ・理解	環境人間社会学特講 環境法学政策学特講 環境経済政策学特講 環境計画学特講 地球環境学特講 環境技術学特講 生物多様性学特講 生体影響学特講 海洋開発産業概論	環境人間学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 環境社会学特講Ⅰ 地域環境政策学特講Ⅰ 環境地域社会学特講Ⅰ 環境政策学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 環境計画学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 環境法学基礎特講Ⅰ－Ⅲ 環境経済学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 地球環境学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 生物多様性学基礎特講Ⅰ－Ⅴ 生体影響学基礎特講Ⅰ－Ⅸ 環境技術学基礎特講Ⅰ－Ⅵ		
	専門的知識 ・技術			環境人間学応用特講Ⅰ－Ⅴ 環境社会学特講Ⅱ 地域環境政策学特講Ⅱ 環境地域社会学特講Ⅱ 環境政策学応用特講Ⅰ－Ⅴ 環境計画学応用特講Ⅰ－Ⅴ 環境法学応用特講Ⅰ－Ⅲ 環境経済学応用特講Ⅰ－Ⅴ 地球環境学応用特講Ⅰ－Ⅴ 生物多様性学応用特講Ⅰ－Ⅴ 生体影響学応用特講Ⅰ－Ⅸ 環境技術学応用特講Ⅰ－Ⅵ	
	環境問題解決の実践力	学際基礎演習 サイバネティクス演習		学際先進演習	特別演習
	地域連携・国際交流・協調性	東シナ海の自然誌Ⅰ ・Ⅱ	国際フィールド先進演習Ⅰ・Ⅱ 地域フィールド先進演習Ⅰ・Ⅱ		国際フィールド先進演習Ⅲ・Ⅳ 地域フィールド先進演習Ⅲ・Ⅳ
	科学的態度			特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ

水産・環境科学総合研究科 博士前期課程 環境科学専攻のアドミッション・ポリシー

環境科学専攻では入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・ 環境科学の発展と環境保全・持続可能な社会の実現に寄与するための文理両面の専門知識を持っており、それを応用した独創的な研究に積極的かつ主体的に取り組む意欲がある。
- ・ 環境を学際的に扱うにあたり、環境をめぐる諸問題を多角的に捉えることの重要性を理解し、関連する幅広い分野を学ぶ意欲がある。
- ・ 研究遂行と学修に必要な基礎学力（知識，語学力，論理構成力，論理的思考力など）を備えている。

以上のポリシーに基づき、研究計画の妥当性・発展性、将来の社会貢献に対する意欲・積極性、論理的思考力、基礎学力、英語能力等を口頭試問で評価します。なお、一般入試における英語能力の評価は英語外部テストのスコアによって行います。また、外国人留学生入試では日本語能力も加えて評価します。

選抜方法に関する別表（求める資質等の評価方法とその比重(特に大きい比重:◎, 大きい比重:○)）

求める資質等 入試区分		基礎学力	研究計画の妥当性・ 発展性，プレゼンテーション能力	英語読解力 (外国人留学生入試の場合は日本語能力についても評価する)	意欲・積極性，環境への関心度，思考力
一般入試	面接	◎	◎		◎
	研究計画書		○		
	志望理由書		○		○
	英語学部テスト			○	
推薦入試	成績証明書	◎			
	面接	○	◎	○	◎
	研究計画書		○		
	志望理由書		○		○
社会人入試	面接	◎	◎	○	◎
	研究計画書		○		
	志望理由書		○		○
外国人留学生入試	面接	◎	◎	○	◎
	研究計画書		○		
	志望理由書		○		○